

建築構造ポケットブック 計算例編 正誤表

頁	章・節	項目	誤	正	掲載日	
21	1.1.5	A. 図1.1.8	屋根勾配 (図の差し替え)	<p>図 1.1.8</p>		2015.12.9
180	3.1.4	E.	A <sub>5</sub> =~ の式 3行目	3,200 <u>kN</u>	3,200 <u>mm<sup>2</sup></u>	2015.12.9
326	4.9.6	B. (2)	下から8行目	細粒分含有率 <u>10%</u> であるから、	細粒分含有率 <u>5%</u> であるから、	2015.12.9
334	4.9.9	図4.9.5	(b) H <sub>1</sub> ~P <sub>L</sub> 判定図	建築H <sub>1</sub> -P <sub>L</sub> 法によるP <sub>L</sub> 値 道示H <sub>1</sub> -P <sub>L</sub> 法によるP <sub>L</sub> 値	道示H <sub>1</sub> -P <sub>L</sub> 法によるP <sub>L</sub> 値 建築H <sub>1</sub> -P <sub>L</sub> 法によるP <sub>L</sub> 値	2015.12.9
62	1.5.4	A. (2)	上から4行目から、 Bの上まで	<p>今回の検討では適用範囲外ではあるが、式の違いにより値がどの程度変化するかを確認するために、仮に略算式を用いた場合についても算出してみると、式(1.5.2)より</p> $C_s = \frac{1}{1 + \frac{4.7 \times 2.5 \times 2730^2}{8.0 \times 270^3}} = 0.643$ <p>が求められる。この値を用いた場合の壁倍率は、</p> $4.459 \times 0.643 / (1.96 \times 0.91) = 1.60 \text{ 倍}$ <p>となり、精算の場合と比べるとやや大きな値を取る。</p>		2019.6.5